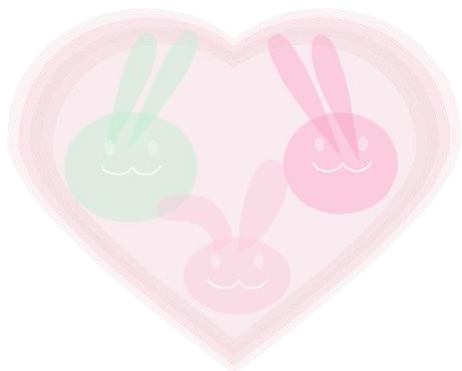


## 卵子提供を考えるみなさまへ



「卵子提供って何？」  
「わたしも受けられるの？」  
「日本で出来るの？」  
「どんな方法なの？」

などなど、卵子提供について気になっていた方は、ぜひこのパンフレットをお読みください。

卵子提供を考えるときの、ちょっとしたヒントになればと思います。

生殖心理カウンセリング研究所は、卵子提供に関するさまざまなことをご相談頂けるカウンセリング機関です。

(あっせん機関ではありません)

お気軽に研究所までお問い合わせください。

生殖心理カウンセリング研究所

## わたしたちの思い

### 立場は、「中立」

相談に行ったら、

「卵子提供を勧められる」  
「卵子提供を反対される」  
そんなふうには心配していませんか？

わたしたちの立場はあくまでも、中立。  
卵子提供という選択肢を強く勧めることも、反対することもしません。

わたしたちは、背景の違うおひとりおひとりのお気持ちや考えに添うことを大切に、迷ったり、不安になったときに、一緒に立ち止まって考えることができます。  
あなたが迷ったとき、「ひとりで悩まなくてもいい」と感じることができる、そんな支援を心がけています。

### どんなときでも、相談出来る

卵子提供に関心がある、  
卵子提供を受けようと決めた、  
卵子提供によりお子さんを授かった、  
どのタイミングでもかまいません。  
「誰かに話したいな」と感じたときは、いつでも、  
研究所をご利用ください。  
ひとりで悩んでいないで、一度お話にきてみませんか？

仲間、専門家と情報・意見交換出来る  
メールリストを開設、また、勉強会、オフ会も  
開催しております。

こちらも併せて活用下さい。

生殖心理カウンセリング研究所所長  
公認心理師 菊田映美

## 生殖心理カウンセリング研究所

併設 国内初生殖医療専門  
カウンセリングルーム

〒104-0061

東京都中央区銀座4-14-7-602

TEL&FAX: 03-3543-3503

E-mail: emi.kikuta@gmail.com

<http://www.repro-psycho-counseling-inst.com/>



お気軽にお問い合わせ  
ください！

## カウンセリングのご案内

個別・夫婦（カップル）対面式

1回120分 ￥10,000

延長20分につき ￥2,000

電話（スカイプなど）

1回 30分 ￥3,000（通話料別）

メール

3往復 ￥8,000（6ヶ月有効：文字制限あり）

すべて税抜

生殖心理カウンセリング研究所

## Q1. 卵子提供を受けるにはどうしたらいいですか？

### 日本国内では

日本には、生殖医療（不妊治療）に関する法律が存在しません。そのため、実は卵子提供をしてもいいのか、よくないのか、はっきりとした基準や規則はないのです。

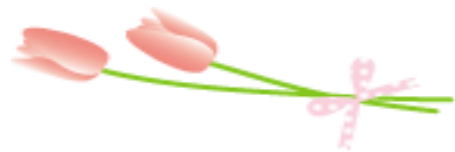
そのような背景から、現在日本には、全国25施設の不妊クリニックによって作られた、「JISART（ジスアート）」という生殖補助医療標準化機関が存在します。JISARTは、卵子提供に関する独自の指針をまとめ、平成23年現在、6施設が卵子提供実施施設として登録をしています。

しかしながら、実施件数は少なく、実施できる条件も特定の疾患に限られており、かなり厳しくなっているのが現状です。

### 海外では

日本人向けの卵子提供エージェンシーが数多く存在しており、アメリカやタイなどの国で行うことが出来ます。

経済的、時間的制約の問題をクリア出来れば、エージェンシーを通した海外での卵子提供は、比較的簡単に出来るようになってきています。ただ、「望めば誰でも簡単に出来る」だけに、安易に海外での卵子提供を選んでしまうと、将来想像もしなかった困難や問題が生じたときに、対処に困ることもありえます。海外での卵子提供を考えている人は、慎重に吟味してみてください。



## Q2. 卵子提供を受けるとき、考えておきたいことはありますか？

### ① ドナー（卵子を提供してくれる人）について

ドナーがどんな人か、どんな健康状態か、子どもが誕生した後、ドナーと関わりを持つことができるのか、知りたいときにドナーの情報を知ることができるのか・・・

など、あらかじめ考えておくとういでしょう。

### ② 血のつながりについて

卵子提供によって生まれてくるお子さんは、出産をする母親とは生物学上つながりがないことになります。良い・悪いではなく、家族の形が違うことを知り、自分たちがこのことをどう受け止めていくのか、一度夫婦で話し合ってみましょう。また、お子さんが成長の過程で、そのことをどう受け止めるかも、少し想像してみましょう。

### ③ 子どもへの告知について

卵子提供が比較的多く行われているアメリカなどでは、子どもに出自の事実を知らせたほうが、子どもの発達や家族関係に良い影響を及ぼすと考えられています。

そのため、卵子提供を受けたことを隠さないことが推奨されます。しかしながら、社会的な偏見や、告知のタイミング、子どもの性格の違いなど、実際の告知は簡単ではありません。

「子どもに言わなければ」と思い詰えず、「どのような告知がありうるか」、または「自分たちはどうするか」など、あらゆる場面を想像し、あらかじめ考えておくことをお勧めします。

## Q3. カウンセリングは受けないといけないのでしょうか？

カウンセリングは「必ず誰もが受けないとけないもの」ではありません。「必要に応じて、受けたいと思ったとき」にいつでも受けられるものです。

ただ、卵子提供を選ぶときは、悩んだり迷ったりすることも多いのではないのでしょうか。治療中も、ストレスや不安をひとりで抱え込んでしまったり・・・。

何よりも、子どもが誕生した後では、誰かの手助けが必要になる機会が増えたとしても、不思議ではありません。

家族のあり方や家族関係は、さまざまです。卵子提供を受けたり、その方法で子どもが誕生したからといって、必ずしも一般的な家庭より問題を生じやすいとは言えません。でも、どのような妊娠・出産であっても、事前に悩み、迷ったことは無駄にはなりません。

あなたとあなたの家族の人生をより豊かなものにしていくために、カウンセリングはあります。一緒に考えてくれる心強い援助者としてカウンセラーのもとに来てくださることを願っています。

治療前、治療中、治療後、いつでもあなたのタイミングで、研究所にいらしてください。

カウンセリングを上手に活用しましょう。